

令和3年度 第3四半期（2021年10月～12月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答＝25 事業所(回答率 100%)

2. 調査対象期間

今期＝2021 年 10 月～12 月

- ・前年同月比＝前年同期(2020 年 10 月～12 月)と比べた今期の状況
- ・前期比＝前期(2021 年 7 月～9 月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し＝今期と比べた来期(2022 年 1 月～3 月)の見通し

3. 調査期間 2021 年 12 月 13 日～12 月 24 日

4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が 0 より上の場合＝景気は上向き

DI値が 0 の場合 ＝景気は横ばい

DI値が 0 より下の場合＝景気は下向き

5. 調査項目ごとの状況

(1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲40.0 で、業種別にみると「小売業」が▲19.8 で最も高く、「サービス業」が▲20.0 で続いている。

先行きは 4.0p悪化の▲44.0 で、業種別では「卸売業」で悪化、その他の業種で横ばいとなっている。

図表1 業況DI

	2021 年 7～9 月期 (前回調査)	前期比	2021 年 10～12 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 1～3 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲45.8	↘	▲40.0	↗	▲44.0	↘
建設業	▲19.8	↗	▲60.0	↘	▲60.0	→
製造業	▲60.0	↘	▲40.0	↗	▲40.0	→
卸売業	▲60.0	↘	▲60.0	→	▲80.0	↘
小売業	▲50.0	↘	▲19.8	↗	▲19.8	→
サービス業	▲40.0	↗	▲20.0	↗	▲20.0	→
(参考)全国全産業	▲33.2	↘	▲15.8	↗	▲18.0	↘
(参考)東北全産業	▲38.6	↘	▲28.9	↗	▲33.3	↘

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)



（２）売上高ＤＩ

売上高DIの現況判断は▲52.0 で、業種別にみると「小売業」が▲39.8 で最も高く、「製造業」「サービス業」が▲40.0 で続いている。

先行きは 12.0p 改善の▲40.0 で、「建設業」「製造業」「小売業」で改善、その他の業種で悪化となっている。

図表２ 売上高ＤＩ

	2021 年 7～9 月期 (前回調査)	前期比	2021 年 10～12 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 1～3 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲62.4	↘	▲52.0	↗	▲40.0	↗
建設業	▲79.8	↘	▲80.0	↘	▲20.0	↗
製造業	▲59.8	↘	▲40.0	↗	▲20.0	↗
卸売業	▲60.0	↘	▲60.0	→	▲80.0	↘
小売業	▲75.0	↘	▲39.8	↗	▲19.8	↗
サービス業	▲39.8	↗	▲40.0	↘	▲60.0	↘
(参考)全国全産業	▲30.4	↘	▲8.2	↗	▲14.9	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（増加の回答割合）－（減少の回答割合）

（３）採算ＤＩ

採算DIの現況判断は▲28.0 で、業種別にみると「小売業」が▲19.8 で最も高く、「建設業」「卸売業」が▲20.0 で続いている。

先行きは 8.0p 悪化の▲36.0 で、「製造業」で改善、「卸売業」「サービス業」で悪化となっている。

図表３ 採算ＤＩ

	2021 年 7～9 月期 (前回調査)	前期比	2021 年 10～12 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 1～3 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲49.9	↘	▲28.0	↗	▲36.0	↘
建設業	▲20.0	↗	▲20.0	→	▲20.0	→
製造業	▲59.8	↘	▲40.0	↗	▲20.0	↗
卸売業	▲80.0	↘	▲20.0	↗	▲60.0	↘
小売業	▲75.0	↘	▲19.8	↗	▲19.8	→
サービス業	▲19.8	↗	▲40.0	↘	▲60.0	↘
(参考)全国全産業	▲34.4	↘	▲19.5	↗	▲23.2	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（４）資金繰りＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲12.0 で、業種別にみると「建設業」「小売業」が 0.0 で最も高く、その他の業種が▲20.0 で続いている。

先行きは横ばいの▲12.0 で、「製造業」で改善、「建設業」で悪化となっている。

図表４ 資金繰りＤＩ

	2021 年 7～9 月期 (前回調査)		2021 年 10～12 月期 (今回調査)		2022 年 1～3 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲24.9	↘	▲12.0	↗	▲12.0	→
建設業	▲39.8	↘	0.0	↗	▲20.0	↘
製造業	▲39.8	↘	▲20.0	↗	0.0	↗
卸売業	0.0	↗	▲20.0	↘	▲20.0	→
小売業	▲24.8	↘	0.0	↗	0.0	→
サービス業	▲20.0	→	▲20.0	→	▲20.0	→
(参考)全国全産業	▲21.7	↘	▲14.6	↗	▲16.2	↘

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

（５）仕入単価ＤＩ

資金繰りDIの現況判断は▲52.0 で、業種別にみると「建設業」「製造業」「サービス業」が▲40.0 で最も高く、「小売業」が▲60.0 で続いている。

先行きは 8.0p 悪化の▲60.0 で、「建設業」「製造業」で悪化、その他の業種で横ばいとなっている。

図表５ 仕入単価ＤＩ

	2021 年 7～9 月期 (前回調査)		2021 年 10～12 月期 (今回調査)		2022 年 1～3 月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲41.7	↘	▲52.0	↘	▲60.0	↘
建設業	▲40.0	↘	▲40.0	→	▲60.0	↘
製造業	0.0	→	▲40.0	↘	▲60.0	↘
卸売業	▲80.0	→	▲80.0	→	▲80.0	→
小売業	▲50.0	↘	▲60.0	↘	▲60.0	→
サービス業	▲40.0	→	▲40.0	→	▲40.0	→
(参考)全国全産業	▲44.1	↘	▲57.3	↘	▲54.2	↗

※（参考）は日本商工会議所ＬＯＢＯ調査の値を参照

ＤＩ＝（下落の回答割合）－（上昇の回答割合）

（６）従業員ＤＩ

従業員DIの現況判断は 0.3 で、全ての業種でやや不足となっている。

先行きは横ばいの 0.3 で、全ての業種でほぼ横ばいとなっている。

図表 6 従業員 D I

	2021 年 7～9 月期 (前回調査)	前期比	2021 年 10～12 月期 (今回調査)	前期比	2022 年 1～3 月期 (先行き)	今期比
全産業	▲8.1	↘	0.3	↗	0.3	→
建設業	0.4	↘	0.6	↗	0.4	↘
製造業	▲20.0	↘	0.0	↗	0.0	→
卸売業	▲20.0	↘	0.2	↗	0.2	→
小売業	0.3	↗	0.2	↘	0.2	→
サービス業	0.6	→	0.6	→	0.8	→
(参考)全国全産業	10.1	↗	17.7	↗	18.6	↗

※（参考）は日本商工会議所 L O B O 調査の値を参照

D I = （不足の回答割合）－（過剰の回答割合）

6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
建設業界の技術者不足は深刻であり、会社の存続にさえ影響する。何か対策を取らねばと思っているが、一社、業界だけでは対応できない状況である。	建設業
観光地、市内飲食店が冷え込んでいる。年末年始の需要に期待している。	卸売業
人手不足のため、売上が横ばいである。	小売業
半導体不足により、・半導体減、・ナビゲーション減、・エンジンスタター減。	小売業
人手不足の影響が如実に感じられる。	サービス業
ここ数カ月はコロナが落ち着いているので、何か集客できるイベントを考えているが、スタッフが足りず、そこまで手が回らない現状である。人手不足が解消されるまで動きたくても動けない。	サービス業